

〈顧問〉

☆ 川合万里子 先生

〈選者〉

◎ 川口孤舟

〈出席者〉

今井紀久男 大林猛 小川恭延 柿崎忠彦 川口孤舟 久米五郎太 後藤保明 豊田ゆたか  
中野一灯 星田啓子

〈投句〉

伊賀山そらお 小西弘子 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 福島正明 古田昇 宮内規雄  
山崎亜也 山内天牛 渡邊盛雄

〈紙上選句〉

《互選句》

六点

☆ 生きたとは耐えることかな春の地震(なる)  
(☆↓「地震つづく春生きたとは耐へること」) 健介 (堅・紀・恭・万・龍・ゆ)

☆◎風光る湖へ艇庫を開け放つ  
(☆↓下五の動詞を終止形にしない方が能動的↓「開け放ち」) 一灯 (眞・万・孤・五・正・青)

◎ やわらかき雨音を聴く寝釈迦かな  
(池田市久安寺にて) 盛雄 (紀・恭・孤・保・正・三)

☆ 花は葉に禁酒の詩友また増えり  
(☆↓下五の「り」助動詞は「たり」の使用が望ましい。他の動詞をつなぐの也可  
↓「ふえつづけ」など) 紀久男 (眞・忠・万・龍・く)

☆◎葉山椒一つ叩きて青をかぐ  
(☆↓下五は一工夫欲しい↓「佳香立ち」) 孤舟 (堅・恭・保・允・啓)

☆ 島影も漁火も揺れ朧月  
(☆↓下五はもう少しゆるやかに締めたい) ↓「月おぼろ」) 五郎太 (万・孤・保・灯・啓)

☆ 花見船要所ゆつくり竿をさす  
(☆↓「ゆつくりと要所へ棹さす花見船」) 孤舟 (万・ゆ・允・青)

☆ 被災地は断水のまま春尽きる  
(☆↓「断水のまま被災地の春尽くる」) 全 (猛・万・灯・青)

☆ 酔ひ醒めの茶漬けに安房の花菜漬  
(☆↓上五と中七の音の関係を知りたい) 恵洲 (眞・忠・万・允)

☆ 墓(ヒキ)鳴いて音の失せたる雨の朝  
(☆↓上五と中七の音の関係を知りたい) 一灯 (堅・ゆ・允・く)

◎ きらきらと光り流れる山葵沢  
(☆↓上五と中七の音の関係を知りたい) 天牛 (万・五・龍・啓)

◎ 笛吹の河原へ返す初燕  
(☆↓上五と中七の音の関係を知りたい) 保明 (孤・允・く)

◎ 特急も鈍行も良し花の雲  
(☆↓上五と中七の音の関係を知りたい) 弘子 (ゆ・灯・三)

◎ 漱石の悩みし街の桜かな  
(☆↓上五と中七の音の関係を知りたい) 健介 (五・く・三)

◎ (正↓下五は八重桜の方がいいのでは?) (ロンドンにて) 堂哉 (眞・猛・正)

◎ 春炬燵拾読みする新古今  
(☆↓下五がぶつきらぼうなので「新古今集を拾読み」) 一灯 (紀・孤・龍)

◎ 五月晴トーマス号が加速する  
(☆↓下五がぶつきらぼうなので「新古今集を拾読み」) 正明 (万・龍・三)

◎ 繚乱の花が過客となりけり  
(☆↓下五が少々窮屈な読みとなつてるので「お花見や老若男女の顔とみ」では如何?) 全 (紀・孤・青)

◎ 花見する老若男女の和む顔  
(☆↓下五が少々窮屈な読みとなつてるので「お花見や老若男女の顔とみ」では如何?) 昇 (万・龍・三)

◎ 晩酌や遠くに蛙(カワズ)聞きながら  
(☆↓中七・下五が少々冗長なので「遠蛙聴きつつ独り晩酌を」) 啓子 (猛・忠・万)

◎ 若布汁啜りひと日の始まりぬ  
(☆↓下五を「始まりぬ」と言い切らないで「始れり」くらいで如何?) 規雄 (忠・万・孤)

◎ 主婦達のお喋り運ぶ春の風  
(☆↓下五を「始まりぬ」と言い切らないで「始れり」くらいで如何?) 全 (忠・万・五)

◎ 春の地震(なる)トラウマとれぬ妻なりし  
(☆↓「地震つづく春やトラウマとれぬ妻」) そらお (猛・万)

◎ 花よそに聴き入る高座人形町  
(☆↓「地震つづく春やトラウマとれぬ妻」) 紀久男 (万・保)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

◎ 全 (灯・正)

二点

☆ さ緑が山をくすぐり花笑ふ

猛 (万・ゆ)

(☆:「緑」と「花」、「くすぐり」と「笑ふ」の二組が季語に近づきすぎている)

この桜一人占めして終日(ひもすがら)

全 (保・允)

麗らかや主人の云ふ事きかぬ犬

忠彦 (眞・正)

浮く心散るまで続く桜かな

全 (堅・保)

若緑娘は父の顔重ね

五郎太 (紀・孤)

◎ 尊氏は嫌ひでしたか春の雲

全 (忠・正)

(鎌倉・長寿寺にて)

☆ 散る桜犬の鼻にもひらり落ち

保明 (眞・万)

(☆:動詞がダブるので少し整理して「花散るや犬の鼻へもひいらりと」)

舵手の声テムズに響く春夕焼

堂哉 (灯・く)

ちびりちびりトロソコ列車の花に酌む

ゆたか (猛・灯)

鳥帰る目つむり撫づる化石句碑

一灯 (紀・青)

(村越化石の碑)

☆ 曇天も光集めて花の散る

啓子 (堅・万)

(☆:「て」つなぎにすると散文的になるので「曇天の光も集め桜散る」)

若沖の錦小路や春大根(だいご)

亜也 (紀・啓)

旨いは駄目筍ごはんおいしいよ

天牛 (恭・万)

(☆:「旨いよりお美味しいが佳し筍飯」)

☆ 予知出来ぬものの怖さよ皐月(サツキ)逝く

盛雄 (紀・五)

遅桜お斎(とき)の酒宴限(きり)も無や

紀久男 (万)

(☆:「限も無きお斎の酒宴遅桜」)

露天風呂桜が覗き風触る

猛 (恭)

ちらほらと花の旅立ち送る朝

全 (ゆ)

老骨とゆつくり共存四月尽

恭延 (啓)

大樽鳥の巢今日も影動く

全 (万)

(☆:「鳥の巢に今日も動く影大樽」)

花水木神は輝く時を決め

忠彦 (五)

新幹線雪形眺め函館へ

全 (青)

貴婦人のごとき気位君子蘭

孤舟 (堅)

風呂敷を解くがごとく紫木蓮

全 (啓)

春時雨十玉堂に軒を借る

五郎太 (く)

花冷えや雪洞(ぼんぼり)寂し祇園かな

保明 (万)

(☆:「や」と「かな」は切字十八字中の主要な切字なので一句中に二つは用いない)

緋毛氈落花散りばめ一幅の画

全 (万)

(☆:「画のやうに落花鏤め緋毛氈」)

☆ 幼児とじゃんけん遊び長閑なり

ゆたか (万)

(☆:下五がいかに付き過ぎの感があるので一考してみたい)

☆ 松に映ゆ桜の並木乾門

全 (万)

(☆:三段切れになりそうなので「乾門桜並木は松に映え」)

☆ ござり吹く茶畝の新茶峽の里

一灯 (紀)

難民の子等へ吹かむと石鹼玉(しゃぼんだま)

昇 (万)

(☆:「難民の子等と吹かなむしゃぼん玉」)

☆ 庭梅の細き花片の落ちる様

啓子 (万)

(☆:「庭梅の細き花びら散る風情」)

☆ 庭桃に飛び来るつがいメジロらし

全 (万)

(☆:「桃」春、「メジロ」眼白夏「夏」の季語なので季重なり)

骨折に効くと鮎子(いかなこ)釘煮食ふ

天牛 (猛)

身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあり春の鴨

盛雄 (三)

●次回青葉会

五月二十六日(木) 「井の頭公園吟行」

(雨天決行)

午前十時 吉祥寺駅公園口集合。午後一時半〜四時半 御殿山コミュニティセンターにて句会。

以上文責 紀久男

一 今回は久しぶりの恭延さんら10名出席。投句は11名（弘子さんが句会前に届け物：投句、年会費、五月の句会場地図、菓子）。①丸紅ビル建替えの為、8月引越。②前期多額の下方修正発表。③AIが世界最強のプロに四勝一敗（囲碁）。④七冠独占の井山名人ならAIに勝てるかもしれない（茂木健一郎）。⑤社友会コンサート好評。⑥井の頭吟行、等を話題にしつつ、弘子さん寄贈の坂角の海老煎餅、啓子さんの吟醸生酛「大七」、五郎太さんの「久保田・萬壽」、忠彦さんの純吟「一ノ蔵」（宮城）、小生の純米「磐城桜」（福島・浪江町の酒蔵が山形の長井蔵を借りて造酒）、堂哉さんのロンドン土産のチョコを賞味し乍ら開始。猛さんの披露で、ご覧のように健介さん、一灯さん、盛雄さんが好成績でした。尚、回覧は熊谷國男さん寄贈の「俳句四季」五月号（孤舟さんの「朴の花」という題の自句「朴の花夜は溪音に籠りゐる」自解と國男さんが所属する「一葦」創刊四十周年の紹介）、そして「俳句界」三月号より孤舟さんの一句鑑賞と加古さんの名句うらばなしのコピ！。

二 関係者近詠

早天の月凍て基地へ定期便  
麦の芽をじつくりと見し戦時中  
雨上がり孤食の椀へ梅一輪  
青天に俯き咲きの八重白梅  
春の露地前垂れ赤き地藏尊  
路地のどか塵収集のアナウンス  
立子忌や立子こそ虚子の愛子（まなご）なれ全  
和したくて、やや離れあひ蒨の臺 眞希子  
梅ふむ手を振り男湯女湯へ 全  
こんにちはへこんばんはと子日脚伸ぶ 全  
読み返し煮返し明日は春立たん 全  
堪忍を説く説教板竜の玉 弘子  
歌ひ終へペーチカ知るやと問ふ媪 全  
駿河路を細面なる雪の富士 全  
天ぷらのごく薄衣ふきのたう 全  
鉄橋に音響かせり雪解川 全  
ふさはしき日を得たるかな春の立つ 青史  
羨ましきはいま句ひ立つ名草の芽 全  
思春期のやうに尖んがり雑木の芽 全  
ほんたうは孤独が怖い座禅草 全  
芝居はね古本あさる春寒し 紀久男  
——「萬緑」—— 五月号  
日暮どき亡妻恋し蛙鳴く 規雄  
——「NHK俳句」—— 五月号  
桜草咲ききつて季節の終りかな 池田澄子選  
野も山も緑濃くなる四月尽 允章  
筍のクール便にて届きけり 全  
白球打つ満月の緑の海へ 全  
Vサイン四つ葉のクローバー見付けし子 恵洲  
風船の蛸風船の鉢巻す 全  
春爛漫四代揃ふ賀の祝ひ 全  
大道芸拙きも居てうらけし 全  
——「大鉄会」—— 四月  
とめど無く荒ぶ大地や皐月逝く 盛雄  
夜桜や人はそれぞれ本音秘め 全  
生粋の江戸弁聴きに初夏の寄席 全  
ヘルパーさんメーデーよそに御出勤 紀久男  
春眠や大統領選負ける夢 健介  
メーデーよ怒れ今こそこの格差 全  
——「きさらぎ句会」四月、五月——  
野あやめの紺深めたる通り雨 允章  
牡丹の袂へ切れずに崩れけり 全  
一斉に飛び立つ鷗夏はじめ 全  
ぶらんこや数多人種の子の笑顔 堂哉  
街を縫ふ運河舟旅春の鴨 全  
——「萬緑」—— 五月号  
いささかも潟を濁さず鳥帰る 熊谷國男

三 忠兵衛さんの句碑 「芦の芽や志賀のさざなみやむときなし」

前月、句集「芦の芽」を紹介しましたが、作品の前「口上」として喜寿記念に上梓した契機と永年辞退していた句碑建立の経緯を飾らない名文で読ませます。 忠兵衛さんはカナモジ論者として高名ですが、国字改革は義務教育と日常使用の文字のみの改良であり、俳句などの古典文学はそのまま大切にしていきたいと主張しております。（「附記」） この主張は小生の認識不足かも知れませんが、殆どの人に知られていないことと存じます。 以上